

日本語表現文型の接続習得に関する研究

－「格助詞ニ＋動詞」などを中心に－

趙南星*
chons@hanbat.ac.kr

<目次>

- | | |
|---------------|---------------------------------------|
| 1. はじめに | 4. 調査結果および考察 |
| 2. 先行研究 | 4.1 表現文型の接続に関する学習者JLPT水準別の全体正答率 |
| 3. 調査方法 | 4.2 表現文型の接続類型別、学習者JLPT水準別の正答率 |
| 3.1 調査参加者 | 4.3 表現文型の接続に関する学習者JLPT水準別の48問題の正答率と誤用 |
| 3.2 調査対象の表現文型 | |
| 3.3 調査手順 | |
| 3.4 分析方法 | 5. おわりに |

主題語: 日本語表現文型(Japanese pattern expression), 接続(connective postposition), 習得(acquisition), 格助詞ニ(case-marking postpositional particle ni), 日本語能力試験(Japanese Language Proficiency Test)

1. はじめに

本稿では、日本語の表現文型(「格助詞ニ＋動詞」など)に前接する用言などが、それらの表現文型と接続するときに発生する誤用を考察する。ここでの表現文型は(旧)JLPT[日本語能力試験(Japanese Language Proficiency Test)]の文法的な<機能語>の類「1級、2級」で提示している「～にあたり、～に先立って、～にしたがって」などを指す。

日本語の格助詞「ニ」は、そのほとんどが韓国語の助詞「에」に対応しているが、「(으)로」「을/를」「이/가」「와/과」などに当てはまることがあるだけでなく、助詞だけを分離できない場合もある。特に、日本語の格助詞「ニ」は名詞以外の用言・助動詞の基本形などに接続するが、これに該当する韓国語の格助詞「에」は原則として名詞(体言)に接続する。このような違いのため、韓国人日本語学習者が学習過程において多様な形態の誤用を生み出すことが予想されるが、それについての詳しい報告はなされていない。

* 한밭대학교 日本語科 教授

よって本稿では、(旧)JLPTで提示している表現文型を対象に、それについての習得(正誤用)の程度を調査する。実際のすべての日本語学習者(専攻者)が関心を持っている日本語能力試験の表現文型は、そのほとんどにおいて「理解(読み)」に留まっているため、その「表現(書き)」の程度を考察することにも意義を置いている。

2. 先行研究

趙(2017 : 60-61)は、(旧)JLPTで提示している表現文型研究(9編)、すなわち表現文型に関する韓国人日本語学習者の難易度、使用現況、指導法について詳しく記述している。

また、趙(2017 : 70-71)は、日本語表現文型の接続において現れる誤用を「 活用上の誤用、 助詞表現文型の接続の誤用、 助詞で始まる表現文型の接続の誤用、 表現文型の接続において発生した助詞の誤用」に分けて提示している。その中で では、~にしたがって[うんどうをしにしたがって(×)→運動するにしたがって(○)]、~たえない(聞きにたえない→聞くにたえない)、~に足る(読みに足る→読むに足る)、~に決まっている(帰るのに決まっている→帰るに決まっている)、~に際して(卒業際して→卒業に際して)、~にほかならない(人のはかならない→人にほかならない)のように、基本形ではなく「ます形」の使用、「の」の挿入、「に」の省略などの誤用を報告している。

よって本稿では、それらの誤用が韓国人日本語学習者の一般的な誤用であるのか、学習者の日本語能力水準に伴ってどのように発生するのかについて、格助詞「に」で始まる多様な表現文型の接続の誤用を考察する。

3. 調査方法

3.1 調査参加者

調査に参加した学習者は、H大学の日本語専攻者でJLPT N1、N2、N3¹⁾の合格者(以下、それぞれN1、N2、N3学習者とする)各27名、計81名である。

1) N3にはN2の不合格者3名が含まれている。

3.2 調査対象の表現文型

調査対象の表現文型は(旧)JLPT表現文型(「格助詞ニ + 動詞」などは43文型²⁾)の24文型の48問題である。それらの24文型(基本的に格助詞ニの前に名詞だけが接統する表現文型は除く)は2級(32文型のうち18文型 : 40問題)の「~にあたり、~にもかかわらず、~にきまっている、~に際し、~に先立って、~にしたがって、~にしては、~にしても、~にしろ、~にすぎない、~に相違ない、~に対して(対比)、~につけ、~につれ、~に伴って、~によって、~にこたえて、~に反して」と1級(11文型のうち6文型 : 8問題)の「~にあたらない、~に至る、~にたかない、~にたえる / ~にたえない、~に足る、~にひきかえ」である。

3.3 調査手順

調査用紙には48問題を提示し、該当部分だけを日本語に翻訳させた。以下はその<調査用紙の一部>である。

<調査用紙の一部>

*次の48個の文は、日本語の表現文型の使用に関する問題です。文末の単語を使用して()に適当な言葉を書きなさい。<各問題下の韓国語は()内の翻訳を意味する>

1. 本年度^{ほんねんど}の仕事は()あたり)、社長があいさつをした。[始める]
 시작하는데 있어서

2. 時間が()かかわらず)、その仕事はしたくない。[ある]
 있음에도 불구하고

. . .

48. プロが()しては)ちょっとおかしい。[やっている]
 하고 있는 것 치고는

- 2) 本稿では43文型の中で「名詞+格助詞ニ...」を除く24文型を対象にしており、下記の表現文型は「~」の部分に「名詞」だけが接統する。
- 2級(32文型のうち17文型): ~において、~に応じて、~に限って、~にかけては、~にかわって、~に関して、~に比べて、~に加えて、*~にこたえて、~に沿って、~について、~にとって、*~に反して、~にほかならない、~に基づいて、*~によって、~にわたって
 - 1級(11文型のうち5文型): ~にあって、~にかかわる、~にして、~に即して、~にもまして
- 上記の表現文型において2級の「名詞+にこたえて/に反して/によって」(*で表示)は「名詞+格助詞ニ...」以外の表現文型と習得の程度を比較するために任意で選択したものである。

3.4 分析方法

表現文型(「格助詞+動詞」など)の接続に関する学習者の誤用は、学習者のJLPT水準に伴う分析と、表現文型の接続類型に伴う分析に大別される。前者はN1、N2、N3学習者の水準であり、後者は(1)動詞、(2)動詞と名詞(スル動詞)、(3)用言など、(4)「用言+ノ」、(5)名詞に続く表現文型である。

4. 調査結果および考察

4.1 表現文型の接続に関する学習者JLPT水準別の全体正答率

<表1>は、「表現文型の接続に関する学習者JLPT水準別の全体正答率」を表している。<表1>で学習者JLPT水準別の全体の正答率をみると、N1、N2、N3学習者の順で高く、学習水準別の差がある。だが、N1学習者の正答率が53.4%と高くなく、N1-N2、N2-N3学習者の正答率の差がそれぞれ19.9%、8.0%とその増加率も大きくないため、表現文型の接続の習得が困難であることがよく分かる。

<表1> 表現文型の接続に関する学習者JLPT水準別の全体正答率

学習者のJLPT水準	N1	N2	N3
正答率(48問題)(%)	53.4	33.5	25.5

4.2 表現文型の接続類型別、学習者JLPT水準別の正答率

4.2.1 表現文型の接続類型に伴う学習者JLPT水準別の正答率

<表2>から<表6>は「表現文型の接続類型に伴う学習者JLPT水準別の正答率」を表している。<表2>から<表6>で接続の類型(5つ)に伴う正答率(合計)をみると、すべてN1、N2、N3学習者の順で高く、学習水準別に差があることが分かる。これは「類型(2)動詞と名詞(スル動詞)」、「類型(3)用言など」のそれぞれの品詞接続においても同一である。また、「類型(5)名詞」の正答率が高いことが分かる。これは、韓国語の「名詞+에(に)」に起因するものと考え

えられる。また、<表4>の「類型(3)用言など」では品詞別にナ形容詞、イ形容詞、動詞の順で正答率が高い。

4.2.2 動詞に接続する表現文型

<表2>は「動詞に接続する表現文型」を表している。<表2>で動詞に接続する表現文型の正答率をみると、問36(～にあたらない)、問15、問37はN1学習者の正答率が高いため習得が容易であり、問19(～にしろ)、問21、問1は正答率が低く習得が難しいことが分かる。また、問36はN1、N2学習者の正答率の差が大きくこの段階で習得がなされていることが分かる。問15はN1、N2、N3学習者の正答率が高いが、その差が小さいため、習得には大きな変化がないことが分かる。さらに、問19は全体の正答率が低いだけでなく、N1、N2、N3学習者の順で習得がされていないことが分かる。

動詞に接続する表現文型の習得は、問36が容易であり、問19が困難であることが分かる。

<表2> 動詞に接続する表現文型

問題の番号		1	15	19	21	31	36	37	合計
表現文型		～にあたり	～にしたがつて	～にしろ	～にすぎない	～につけ	～にあたらない	～に至る	
学習者JLPT水準別の正答率(%)	N1	44.4	63.0	25.9	37.0	55.6	77.8	63.0	52.4
	N2	25.9	55.6	14.8	22.2	25.9	33.3	40.7	31.2
	N3	11.1	51.9	18.5	14.8	11.1	14.8	22.2	20.6

4.2.3 動詞と名詞(スル動詞)に接続する表現文型

<表3>は「動詞と名詞(スル動詞)に接続する表現文型」を表している。<表3>で動詞と名詞(スル動詞)に接続する表現文型の正答率をみると、動詞/名詞の場合問32(～につれて)/問41(～に足る)はN1学習者の正答率が高く習得が容易であり、問38(～にたえる)/問12(～に際して)は正答率が低く習得が難しいことが分かる。また、動詞/名詞習得のN1学習者の正答率の差が大きい表現文型は「～に際して」(問11・問12)、「～につれて」(問32・問33)、「～に足る」(問40・問41)である。「～に際して」、「～につれて」は動詞、「～に足る」は名詞に接続するときに正答率が高い。また、問12は正答率が最も低いだけでなく、N1、N2、N3学習者の順で習得がなされていない。問39もN3がN2より正答率が高い。また、問41はN2、N3学習者の正答率が

同じであるが、N1 学習者との差が最も大きく、この段階で習得がなされていることが分かる。

動詞と名詞(スル動詞)に接続する表現文型の習得は、「～にたえる」(問38・問39)、「～に際して」(問11・問12)が困難であることが分かる。

<表3> 動詞と名詞(スル動詞)に接続する表現文型

問題の番号		動詞	-	11	13	32	34	38	40	合計
		名詞 (スル動詞)	4	12	14	33	35	39	41	
表現文型			～にかた くない	～に際 して	～に先 立って	～につ れて	～ことも なって	～にた える	～に足 る	
学習者 JLPT水 準別の 正答率 (%)	N1	動詞		40.7	55.6	77.8	44.4	33.3	48.1	50.0
	N2			18.5	25.9	51.9	22.2	11.1	18.5	24.7
	N3			11.1	18.5	40.7	22.2	7.4	14.8	19.1
	N1	名詞 (スル動詞)	48.1	3.7	44.4	44.4	51.9	37.0	77.8	43.9
	N2		22.1	11.1	44.4	40.7	40.7	14.8	37.0	30.1
	N3		11.1	7.4	25.9	18.5	14.8	25.9	37.0	20.1

4.2.4 用言などに接続する表現文型

<表4>は「用言などに接続する表現文型」を表している。<表4>で用言などに接続する表現文型の正答率をみると、全体的にナ形容詞、イ形容詞、動詞の順で高い。そして、全体的に「～にもかかわらず」の正答率が高く、「～にしては」の正答率が低い。「～にしても」は動詞(問17)よりもイ形容詞(問18)とナ形容詞(問45)の正答率が、「～にしろ」は動詞(問19)とイ形容詞(問20)よりもナ形容詞(問46)の正答率が相対的に高い。「～にしても」(問45)と「～にしろ」(問46)はナ形容詞の接続において正答率が高く、「～にしても」(問17)は動詞の接続において正答率が低い。

用言などに接続する表現文型の習得は、品詞別にナ形容詞、イ形容詞、動詞の順で容易であり、表現文型「～にもかかわらず」は相対的に習得が容易であること、また「～にしては」は習得が困難であることが分かる。

<表4> 用言などに接続する表現文型

問題の 番号		動詞		2	48	17	19	8	23	28	合計
			+た	3	16						
		イ形容詞	43	44	18	20	9	22	29		
		ナ形容詞	5	47	45	46	10	24	30		
表現 文型			～にもか かわら ず	～にし ては	～にし ても	～にし ろ	～にすぎ ない	～に相違 ない	～にちが い ない		
学 習 者 JL PT 水 準 別 の 正 答 率 (%)	N1	動詞	77.8	33.3	11.1	25.9	59.3	44.4	59.3	44.4	
	N2		48.1	14.8	3.7	14.8	29.6	22.2	29.6	23.3	
	N3		33.3	3.7	3.7	18.5	25.9	29.6	37.0	21.7	
	N1	動詞+た	59.3	18.5							38.9
	N2		37.0	14.8							25.9
	N3		29.6	0.0							14.8
	N1	イ形容詞	70.4	33.3	74.1	44.4	51.9	40.7	59.3	53.4	
	N2		40.7	11.1	81.5	0.0	22.2	25.9	48.1	38.3	
	N3		14.8	3.7	44.4	11.1	37.0	29.6	40.7	25.9	
	N1	ナ形容詞	74.1	40.7	92.6	88.9	77.8	51.9	74.1	71.4	
	N2		37.0	29.6	70.4	43.0	51.9	37.0	40.7	47.1	
	N3		51.9	18.5	25.9	29.6	59.3	55.6	51.9	41.8	

4.2.5 「用言＋ノ」に接続する表現文型

<表5>は「用言＋ノ」に接続する表現文型を表している。<表5>で「用言＋ノ」に接続する表現文型の正答率をみると、全体的に「～にもかかわらず」(問42)、「～に対して」(問6)、「～に引き換え」(問7)の順で高い。また、「用言＋ノ」に接続する表現文型は品詞別の正答率が全体的に低く、習得が難しいことが分かる。

<表5> 「用言＋ノ」に接続する表現文型

問題の番号		動詞	+の	42	-	-
		イ形容詞		-	6	-
		ナ形容詞		-	-	7
表現文型				～にもかかわらず	～に対して (対比)	～に引き換え
学習者JLPT 水準別の正答率(%)	N1			59.3	25.9	11.1
	N2			22.1	44.4	22.2
	N3			3.7	22.2	7.4

4.2.6 名詞に接続する表現文型

<表6>は「名詞に接続する表現文型」を表している。<表6>で名詞に接続する表現文型の正答率をみると、「～にこたえて」(問26)、「～によって」(問25)、「～に反して」(問27)の順で正答率が高い。そして問26、問27はN1、N2、N3学習者の順で正答率が高いが、問25はN3の方がN2より正答率が高い。

<表6> 名詞に接続する表現文型

問題の番号		25	26	27	合計
表現文型		～によって	～にこたえて	～に反して	
学習者JLPT 水準別の正答率(%)	N1	85.2	88.9	81.5	85.2
	N2	48.1	85.2	48.1	60.5
	N3	59.3	59.3	33.3	50.6

4.3 表現文型の接続に関する学習者JLPT水準別の48問題の正答率と誤用

4.3.1 正答率について

<表7>は「表現文型の接続に関する学習者JLPT水準別の48問題の正答率と誤用」を表している。<表7>の問題別正答率をみると、N1学習者は問45(92.6%)[重要であるにしても/重要だとしても(○)←重要しても(×)]、問26、46(88.9) ... 問7、17(11.1)、問12(3.7)[投票に際して←投票する際して/投票際して/投票するに際して]、N2学習者は問26(85.2%)[期待にこたえて←期待するにこたえて]、問18(81.5)、問45(70.4) ... 問12、38、44(11.1)、問17(3.7)、問20(0.0)[ないにしろ←ないしろ/ないとしろ]、N3学習者は問10(59.3%)[好きに決まっている←好きなのが決まっている]、問25、26(59.3) ... 問17、42、44(3.7%)、問16、48(0.0%)[作業したにしては←作業したとしては/作業しては]、学習者全体では問26(77.8%)、問18(66.7)、問25(64.2) ... 問7(13.6)、問12(7.4)、問17(6.2)[楽しむにしても←楽しむとしても]の順で高い。また、48問のうち32問(66.7%)はN1、N2、N3学習者の順で正答率が同じか高いが、11問(22.9%：問5、9、10、19、20、22、23、25、28、30、39)はN1、N3、N2、3問(6.3%：問6、7、18)はN2、N1、N3学習者の順で高い。残りの2問はN2、N3、N1(問12.投票に際して←投票する際して/投票際して/投票するに際して)、N3、N1、N2(問24.きれいに相違ない←きれいなことに相違ない)学習者の順で高い。また、2級の表現文型(38.8%)よりは1級の表現文型³⁾(30.7%)の正答率が低く、N1[49.5%(1級)/54.2%(2級)]、N2(25.0/35.2)、N3(17.6/27.0)学

習者の順で正答率が高い。

これらの結果をみると、すべての問題において必ず学習者のJLPT水準に正比例して正答率が高いわけではないため、表現文型の接続の習得が容易でないことが分かる。

<表7> 表現文型の接続に関する学習者JLPT水準別の48問題の正答率と誤用

問題 の 番号	問題と学習者の回答類型 *日本語母語話者(日本語教師)5人に、学習者の回答の一部について○、×、で判断してもらった。それを基に×、とは関係なく○が4人以上であるものを○、3人であるものを、2人であるものをとした。 正答率は○、の回答人数を対象にした。	JLPT水準別の学習者				
		回答類型別の人数 (81人)			正答率 (%)	
		N1 27人	N2 27人	N3 27人	N1 [順位] N2 N3 全体	
1	1. 本年度の仕事(ほんねんどあたり)、社長があいさつをした。[始める] 시작하는데 있어서					
	○始めるにあたり	12	7	3	44.4[29] 25.9[27] 11.1[36] 27.1[34]	
	(二) 始めるあたり	5	7	7		
	(動) 始めあたり	-	5	6		
	(動) 始めにあたり	4	3	2		
	始めるのにあたり	3	3	-		
	(ノ) 始めることにあたり	2	-	-		
	始めてあたり	-	1	1		
	始めるのあたり	-	-	2		
	その他	1	1	6		
2	2. 時間が(かかわらず)、その仕事はしたくない。[ある] 있음에도 불구하고					
	○あるにもかかわらず あるにもかかわらず	21 2	13 4	9 1	77.8 [6] 48.1 [8] 33.3[14] 53.1[12]	
	(二) あるかかわらず	-	4	8		
	(ノ) あるのにもかかわらず	2	1	1		
	(ノ) あるのにかかわらず	-	1	-		
	(動) ありかかわらず	-	-	4		
	(ノ) あることに(も)かかわらず	1	1	1		
	その他	1	3	3		

3) 1級の表現文型の問題は8問(<表7>の問4、問7、問36～問41)、2級の表現文型の問題は40問である。

3	3. 一生懸命(^{べんきょう} かかわらず)成績があがらない。[勉強する] 공부했음에도 불구하고				
	○勉強したにもかかわらず	13	7	6	59.3[17] 37.0[19] 29.6[16] 42.0[16]
	勉強したにかかわらず	-	2	2	
	○勉強したのにもかかわらず	3	3	2	
	勉強したのにかかわらず	2	2	-	
	勉強するに(も)かかわらず	6	-	5	
	勉強するかかわらず	-	4	6	
	(ノ) 勉強したこと(も)かかわらず	2	1	-	
	勉強しに(も)かかわらず	1	-	2	
	(動) 勉強かかわらず	-	2	1	
	(二) 勉強したかかわらず	-	1	1	
	その他	-	5	2	
4	4. 彼女のやつれかたをみれば、どれほど大変だったのか(^{そうぞう} かたくない)。[想像する] 상상하기 어렵지 않다				
	想像しかたくない	9	14	11	48.1[27] 22.1[36] 11.1[36] 27.1[34]
	想像するにかたくない	8	5	3	
	(二) 想像するかたくない	2	2	5	
	○想像にかたくない	5	1	-	
	想像しにかたくない	2	1	3	
	(二) 想像かたくない	-	2	3	
	想像するのにかたくない	-	1	1	
	その他	1	1	1	
5	5. 人に指示をするのが(^{きら} かかわらず)、人に教えなさいけない。[嫌いだ] 싫어함에도 불구하고				
	○嫌いにもかかわらず	16	8	13	74.1[11] 37.0[19] 51.9 [5] 54.3[10]
	嫌いに(も)かかわらず	5	4	3	
	○嫌いなものにもかかわらず	4	2	1	
	(ノ) 嫌いなものにかかわらず	1	4	-	
	(二) 嫌い(も)かかわらず	-	3	6	
	嫌いだ(も)かかわらず	-	1	1	
	(ノ) 嫌い(な)ことにもかかわらず	-	-	2	
	その他	1	5	1	
6	6. 家賃がとても(^{やす} 対して)、部屋が綺麗である。[安い] 싼 것에 비해				
	○安い(の)に対して	7	12	6	
	安い(の)に対して	9	5	7	

	(ノ) 安いことに対して	10	3	6	25.9[43]
	(二) 安い対して	-	3	6	44.4[12]
	安くに対して	1	1	1	22.2[24]
	その他	-	3	1	30.8[30]
7	7. 父は無口で(^{むくち} 引き換え)、母は明るく穏やかな人です。[短気 ^{たんき} だ] 성질이 급한 것에 비해				
	短気に引き換え	10	5	6	11.1[46]
	○短気なのに引き換え	3	6	2	
	(ノ) 短気なことに引き換え	8	4	5	
	(二) 短気引き換え	1	4	3	22.2[31]
	短気な引き換え	-	2	4	7.4[41]
	(ノ) 短気の[こと]に引き換え	2	2	1	13.6[45]
	短気だ(に)引き換え	-	2	2	
	短気が引き換え	-	1	3	
	その他	3	1	1	
8	8. 命あるものはいつかは(^し 決まっている)。[死ぬ] 죽기 마련이다				
	○死ぬに決まっている	16	8	7	59.3[17]
	(動) 死に決まっている	3	4	8	
	(ノ) 死ぬことに決まっている	5	4	3	
	(二) 死ぬ決まっている	-	6	2	29.6[24]
	(ノ) 死ぬのが決まっている	-	3	1	25.9[20]
	死んで決まっている	-	-	4	38.3[21]
	(ノ) 死ぬのに決まっている	1	1	1	
その他	2	1	1		
9	9. よく効く薬は(^し 決まっている)。[まずい] 맛이 없는 것이 당연하다				
	○まずいに決まっている	14	6	10	51.9[24]
	(ノ) まずいことに決まっている	6	3	3	
	(ノ) まずいのに決まっている	5	4	2	
	(ノ) まずいのが決まっている	-	5	3	22.2[32]
	(二) まずい決まっている	-	4	4	
	まずいと[って]決まっている	1	1	1	
	(ノ) まずいのは決まっている	-	3	-	37.0[23]
	(ノ) まずいことが決まっている	1	-	1	
	まずく(て)決まっている	-	-	2	
	その他	-	1	1	

10	10. 彼女はそれを(決まっている。 ^す 好きだ) 당연히 좋아한다				
	○好きに決まっている	21	14	16	77.8 [6] 51.9 [6] 59.3 [1] 63.0 [4]
	(ノ) 好きなのが決まっている	1	3	-	
	(ニ) 好き決まっている	-	3	1	
	(ノ) 好きなことに決まっている	1	1	2	
	(ノ) 好きなのに決まっている	1	2	-	
	好きな決まっている	-	-	3	
	好きだ決まっている	-	1	1	
その他	3	3	4		
11	11. ここを(際し、 ^{はな} ぜひ会っておきたい人がいます。[離れる] 떠남에 있어서				
	○離れるに際し	11	5	3	40.7[35] 18.5[38] 11.1[36] 23.4[39]
	(ニ) 離れる際し	8	7	9	
	(動) 離れに際し	1	4	6	
	(ノ) 離れるのに際し	2	5	1	
	(動) 離れ際し	1	2	5	
	(ノ) 離れることに際し	3	1	-	
	離れた際し	-	2	1	
その他	1	1	2		
12	12. 選挙のポスターには、(際して) ^{とうひよう} の注意が書かれている。[投票する] 투표할 때의				
	(名) 投票する際して	13	7	11	3.7[48] 11.1[44] 7.4[41] 7.4[47]
	(ニ) 投票際して	1	7	6	
	(名) 投票するに際して	7	2	2	
	○投票に際して	1	3	2	
	投票するのに際して	2	3	-	
	投票した際して	-	2	3	
	投票しに際して	-	2	1	
	投票することに際して	1	-	1	
	その他	2	1	1	
13	13. この問題を(先立って、 検討しておくべきもう一つの問題がある。[考える] 생각하기에 앞서				
	○考えるに先立って	15	7	5	
	(動) 考えに先立って	2	5	7	

	(ノ) 考えることに先立って	8	1	2	
	(ノ) 考えるのに先立って	2	5	1	55.6[22]
	(動) 考え先立って	-	4	4	25.9[27]
	(二) 考える先立って	-	2	5	18.5[27]
	考えて先立って	-	1	2	
	その他	-	2	1	33.3[26]
14	14. 私は彼の(先立って)、出発しなければならなかった。[到着する] 도착에 앞서				
	○到着に先立って	12	12	7	
	(名) 到着するに先立って	9	3	3	
	(名) 到着する先立って	-	3	5	
	(ノ) 到着することに先立って	4	1	1	44.4[29]
	(ノ) 到着するのに先立って	1	4	1	44.4[12]
	到着しに先立って	1	-	4	25.9[20]
	(二) 到着先立って	-	-	3	
	到着した先立って	-	-	3	38.2[21]
	到着の先立って	-	2	-	
	その他	-	2	-	
15	15. 年を(したがって)、物忘れがひどくなる。[取る] 먹음에 따라서				
	○取るにしたがって	17	15	14	
	(ノ) 取ることにしたがって	6	2	-	
	(二) 取るしたがって	-	4	3	63.0[15]
	(ノ) 取るのにしたがって	2	2	2	55.6 [5]
	取ってしたがって	1	-	5	51.9 [5]
	(動) 取りにしたがって	1	2	1	
	(動) 取りしたがって	-	2	1	56.8 [7]
	その他	-	-	1	
16	16. 一人で(しては)、仕事のできが早い。[作業する] 작업한 것치고는				
	作業したとしては	3	7	4	
	(動) 作業しては	2	4	7	
	○作業したにしては	5	4	-	
	(動) 作業(し)にしては	-	3	3	
	作業するしては	2	1	3	

	(ノ) 作業したのにしては	3	1	-	
	(ノ) 作業したことにしては	3	1	-	
	作業するにしては	2	-	2	18.5[45]
	(ノ) 作業したものとしては	1	1	1	14.8[40]
	作業するとしては	-	2	1	0.0[48]
	(ニ) 作業したしては	-	-	3	
	(ノ) 作業したこととしては	2	-	-	11.1[46]
	回答なし	-	1	-	
	その他	4	2	3	
17	17. 同じように人生を(しても)、楽しみ方は人それぞれだ。[楽しむ] 즐긴다 해도				
	楽しむとしても	15	11	5	
	(動) 楽しみにしても	1	5	3	
	(動) 楽しみしても	1	1	4	
	○楽しむにしても	3	1	1	11.1[46]
	楽しんだとしても	2	2	1	3.7[47]
	楽しんだしても	1	-	4	3.7[44]
	(ニ) 楽しむしても	1	2	1	6.2[48]
	楽しんでも	-	1	2	
	楽ししても	-	1	1	
	その他	3	3	5	
18	18. たとえ彼女を本気で(しても)、君は彼女を助けなければならない。[好きではない] 좋아하지 않는다 해도				
	○好きではないとしても	17	20	10	74.1[11]
	(ニ) 好きではないしても	1	3	8	81.5 [2]
	好きではないにしても	3	2	2	44.4 [8]
	好きではなくしても	-	1	5	
	その他	6	1	2	66.7 [2]
19	19. 手紙を(しろ)、論文を(しろ)、パソコンがあると楽です。[書く] 쓰든 쓰든				
	(ニ) 書くしろ/書くしろ	9	7	7	
	(動) 書きしろ/書きしろ	4	5	8	25.9[43]
	○書くにしろ/書くにしろ	7	4	5	14.8[41]
	(動) 書きにしろ/書きにしろ	3	3	2	18.5[27]
	書くとしろ/書くとしろ	2	5	1	
	書いてしろ/書いてしろ	-	1	2	19.7[40]
	その他	2	2	2	

20	20. その気が(しろ)何か連絡がほしいです。[ない] 없다 해도				44.4[29] 0.0[48] 11.1[36] 18.5[41]
	(二) ないしろ	5	14	11	
	ないとしろ	7	8	6	
	○ないにしろ	12	-	3	
	なしろ	1	2	-	
	ないだとしろ	-	1	1	
	なさしろ	-	1	1	
	回答なし	-	1	1	
	その他	2	-	4	
21	21. 一部外国にその例を(すぎない)。[見る] 볼 뿐이다				37.0[38] 22.2[31] 14.8[31] 24.7[38]
	○見るにすぎない	10	6	4	
	(動) 見すぎない	6	9	5	
	(二) 見るすぎない	-	3	12	
	(ノ) 見ることにすぎない	5	4	-	
	(動) 見にすぎない	2	3	4	
	(ノ) 見るのにすぎない	4	-	-	
	見てすぎない	-	-	2	
	その他	-	2	-	
22	22. 価格も(相違 ^{やす} ない)。[安い] 싼 것이 틀림없다				40.7[35] 25.9[27] 29.6[16] 32.1[27]
	○安いに相違ない	11	7	8	
	(ノ) 安いのに相違ない	7	6	-	
	(ノ) 安いことに(は)相違ない	4	4	2	
	(ノ) 安いのが相違ない	-	3	4	
	(二) 安い相違ない	-	1	5	
	安く(て)相違ない	1	1	4	
	安いものに相違ない	3	2	-	
	安相違ない	1	2	-	
	(ノ) 安いことが相違ない	-	1	1	
	その他	-	-	3	
23	23. 彼ならこの困難を(相違 ^{きぬ} ない)。[切り抜ける] 극복할 게 틀림없다				
	○切り抜けるに相違ない	12	6	8	
	(ノ) 切り抜けるのに相違ない	4	7	2	

	(ノ) 切り抜けることに相違ない	6	3	-	44.4[29] 22.2[31] 29.6[16] 32.1[27]
	(動) 切り抜けるに相違ない	2	2	5	
	(ノ) 切り抜けるの[ことが]が相違ない	2	4	1	
	(動) 切り抜け相違ない	1	3	2	
	(二) 切り抜ける相違ない	-	2	3	
	切り抜けて相違ない	-	-	2	
	その他	-	-	4	
24	24. 私の発音が(相違ない)。[きれいだ] 깨끗한 것이 틀림없다				51.9[24] 37.0[19] 55.6 [4] 48.2[15]
	きれいに相違ない	13	8	15	
	(ノ)きれいなことに相違ない	5	4	1	
	(ノ)きれいのに相違ない	4	5	-	
	(二)きれい相違ない	1	2	2	
	(ノ)きれいのが相違ない	-	1	3	
	きれいなのに相違ない	1	2	-	
	(ノ)きれいことに相違ない	1	1	-	
	きれいだ相違ない	-	2	-	
	きれいな相違ない	-	-	2	
	きれいで(は)相違ない	-	-	2	
	その他	2	2	2	
25	25. (よって)問題を解決する。[話し合う] 대화로				85.2 [4] 48.1 [8] 59.3 [1] 64.2 [3]
	○話し合いによって	19	12	14	
	(名)話し合うによって	4	6	2	
	(二)話し合いよって	-	5	3	
	○話し合うことによって	4	1	2	
	(名)話し合うよって	-	2	5	
	その他	-	1	1	
26	26. 小林選手は周囲の(こたえて)、みごとに優勝した。[期待する] 기대에 부응해서				88.9 [2] 85.2 [1] 59.3 [1] 77.8 [1]
	○期待にこたえて	24	23	16	
	(名)期待するにこたえて	3	-	1	
	(名)期待するこたえて	-	1	2	
	期待してこたえて	-	-	3	
	(ノ)期待することにこたえて	-	1	1	
	期待しにこたえて	-	-	2	
	その他	-	2	2	

27	27. 彼は両親の(反する)道を選んだ。[願う] 기대와 다른				81.5 [5] 48.1 [8] 33.3[14] 54.3[10]
	○願いに反する	22	13	9	
	願いと(は)反する	3	7	4	
	(名) 願うに(は)反する	2	2	2	
	(名) 願う反する	-	2	3	
	(二) 願い反する	-	1	3	
	(名) 願うと反する	-	1	2	
28	28. その計画は(違いない)。[成功する] 성공할 게 틀림없다				59.3[17] 29.6[24] 37.0[11] 42.0[16]
	○成功するに違いない	16	8	10	
	(ノ) 成功するのに違いない	4	5	1	
	(ノ) 成功することに違いない	5	4	-	
	(動) 成功しに違いない	1	3	3	
	(二) 成功する違いない	-	2	3	
	(ノ) 成功するのが違いない	-	2	1	
	(動) 成功に違いない	1	1	1	
	(動) 成功違いない	-	1	1	
	成功して違いない	-	-	2	
29	29. あの映画はどんな人でも(違いない)。[おもしろい] 틀림없이 재미있을 것이다				59.3[17] 48.1 [8] 40.7 [9] 49.4[14]
	○面白いに違いない	16	13	11	
	(ノ) 面白いことに違いない	6	2	-	
	(二) 面白い違いない	-	4	4	
	(ノ) 面白いのに違いない	3	3	1	
	面白く(て)違いない	1	1	4	
	(ノ) 面白いのが違いない	-	1	2	
	面白くに違いない	-	1	1	
	その他	1	2	4	
30	30. あなたはメキシコ料理が(違いない)。[好きだ] 좋아하는 게 틀림없다				
	○好きに違いない	20	11	14	
	(ノ) 好きなのに違いない	3	6	2	
	(ノ) 好きなことに違いない	3	2	-	

	好きで(は)違いない	-	3	2	
	(ノ) 好きなのが違いない	-	1	2	74.1[11]
	好きな違いない	-	-	3	40.7[14]
	(二) 好き違いない	-	1	1	51.9 [5]
	(ノ) 好きなことは違いない	-	1	1	55.6 [9]
	その他	1	2	2	
	31 家族の写真を(つけ)、会いたくてたまらなくなる。[見る] 불 때마다				
	○見るにつけ	15	7	3	
31	(動) 見つけ	6	7	7	55.6[22]
	(二) 見るつけ	1	7	9	25.9[27]
	(動) 見につけ	4	4	5	11.1[36]
	見たつけ	-	-	2	30.9[29]
	その他	1	2	1	
	32 . 時 ^{とき} が(つれ)、私は彼のことが理解できるようになった。[経 ^た つ] 지남에 따라				
	○経 ^た つにつれ	21	14	11	
32	(二) 経 ^た つつれ	-	7	4	77.8 [6]
	(動) 経 ^た ちつれ	1	2	6	51.9 [6]
	(動) 経 ^た ちにつれ	3	1	3	40.7 [9]
	経 ^た つれ	1	1	-	56.8[32]
	その他	1	2	3	
	33. 体の(つれて)、いろいろな病気にかかりやすくなった。[老 ^{ろう} 化する] 노화하면서				
	○老 ^{ろう} 化につれて	12	11	5	
	(名) 老 ^{ろう} 化するにつれて	7	5	6	
	老 ^{ろう} 化しつれて	2	6	5	
33	老 ^{ろう} 化しにつれて	3	1	1	44.4[29]
	(名) 老 ^{ろう} 化するつれて	1	1	3	40.7[14]
	(二) 老 ^{ろう} 化つれて	-	1	3	18.5[27]
	老 ^{ろう} 化してつれて	-	1	2	34.5[25]
	(ノ) 老 ^{ろう} 化するのにつれて	2	-	-	
	老 ^{ろう} 化したつれて	-	-	2	
	その他	-	1	-	

34	34. 子供から大人に(伴って)、歯の磨き方も変わります。[成長する] 성장하면서				44.4[29] 22.2[31] 22.2[24] 29.6[31]
	○成長するに伴って	12	6	6	
	(動) 成長に伴って	8	7	3	
	(ノ) 成長することに伴って	3	2	1	
	(二) 成長する伴って	-	4	2	
	成長(を)伴って	-	2	4	
	(動) 成長しに伴って	-	1	4	
	(動) 成長し伴って	1	1	2	
	(動) 成長と伴って	-	2	2	
	(ノ) 成長するのに伴って	2	1	-	
	成長すると伴って	1	-	1	
	成長して伴って	-	1	1	
	その他	-	-	1	
35	35. 交通の(伴って)、人力車 ^{じんりきしゃ} や蒸気機関車 ^{じょうききかんしゃ} などは姿を消していった。[発達する] 발달함에 따라서				51.9[24] 40.7[14] 14.8[31] 35.8[24]
	○発達に伴って	14	11	4	
	(名) 発達するに伴って	8	3	5	
	発達しに伴って	-	1	6	
	(名) 発達する伴って	-	4	2	
	(ノ) 発達するの[こと]に伴って	4	2	-	
	発達と伴って	1	2	2	
	発達し(て)伴って	-	2	2	
	(二) 発達伴って	-	1	2	
	発達を伴って	-	1	1	
	その他	-	-	3	
36	36. この件なら、わざわざ(当らない)。電話で十分ですよ。[出向く] 나갈 정도는 아니다				77.8 [6] 33.3[23] 14.8[31] 42.0[16]
	出向くには当らない	21	9	4	
	(動) 出向きに当らない	2	3	2	
	(二) 出向く当らない	1	3	3	
	(動) 出向き当らない	-	1	5	
	出向くほど(に)(は)当らない	1	4	-	
	出向いて(は)当らない	-	2	1	
	出向当らない	-	1	2	

	出向いに当らない	1	-	1	
	出向くまでは当らない	-	2	-	
	その他	1	2	9	
*「出向くには当らない」には、「出向くに当らない」(N1:10人、N2:5人、N3:4人)が含まれる。 **「その他」の内訳は以下の通りである。 N1 : 出向けるほど当たらない N2 : 出向けに程度は当たらない、出向くことに当らない N3 : 出向けるに当たらない、出向かなく当らない、出向きとは当らない、出向きは当らない、出向くくらいはに当らない、出向くことでは当らない、出向くことは当らない、出向くと当らない、出向くのは当らない					
37	37. 経営方針の誤りから多大な損害を(				

	(二) 鑑賞たえる	-	6	6	37.0[38] 14.8[42] 25.9[20] 25.9[37]
	(名) 鑑賞するたえる	1	2	3	
	鑑賞しにたえる	2	-	2	
	鑑賞してたえる	1	1	1	
	その他	-	-	3	
40	40. この分野には、研究に一生を(足る)魅力がある。[ささげる] 바칠만한				
	(動) ささげ足る	5	13	7	48.1[27] 18.5[39] 14.8[31] 27.1[34]
	○ささげるに足る	13	5	4	
	(動) ささげに足る	7	3	9	
	(二) ささげる足る	-	3	2	
	(ノ) ささげることに足る	1	1	-	
	ささげられる足る	-	-	2	
	その他	1	2	3	
	*「ささげるに足る」には「ささげるには足る」(N1：1人)が含まれる。				
41	41. それだけでは(足る)結果が出なかった。 ^{만족} [満足する] 만족할만한				
	○満足に足る	10	6	6	77.8 [6] 37.0[19] 37.0[11] 50.6[13]
	満足し足る	4	12	4	
	満足するに足る	11	4	4	
	(二) 満足足る	1	1	4	
	(二) 満足する足る	-	2	3	
	満足しに足る	-	-	3	
	その他	1	2	3	
42	42. 甘いものをたくさん(かかわらず)太らない。[食べる] 먹는데도				
	○食べるにもかかわらず	1	6	1	59.3[17] 22.1[36] 3.7[44] 28.4[33]
	食べるにかかわらず	1	2	1	
	(動) 食べに(も)かかわらず	3	7	4	
	(動) 食べかかわらず	-	3	7	
	食べて(も)かかわらず	-	2	8	
	○食べるのにもかかわらず	3	-	-	
	(ノ) 食べるのにかかわらず	2	1	2	
	(二) 食べるかかわらず	-	3	3	
	(ノ) 食べることに(も)かかわらず	2	1	-	
	食べているにもかかわらず	1	1	-	
	食べたにもかかわらず	1	-	1	
	その他	-	1	-	

43	43. あの軽自動車は(かかわらず)、よく売れている。[高い] 비싼데도				70.4[14] 40.7[14] 14.8[31] 42.0[16]
	○高いにもかかわらず 高いにかかわらず	16 3	11 1	4 2	
	(二) 高いかかわらず	-	7	7	
	○高いのにもかかわらず (ノ) 高いのにかかわらず	3 2	- 1	- 2	
	高にかかわらず	-	2	5	
	高くても(も)かかわらず	-	2	3	
	(ノ) 高いことに(も)かかわらず	3	1	-	
	高くにもかかわらず	-	2	-	
	高にかかわらず	-	-	2	
	その他	-	-	2	
44	44. 値段が(しては)美味しかったです。[安い] 싼 것 치고는				33.3[40] 11.1[46] 3.7[44] 16.0[44]
	安いとしては	4	8	5	
	安くしては	-	7	8	
	安いにしては	9	3	1	
	(二) 安いしては	2	2	9	
	安いものとしては	3	1	-	
	(ノ) 安いのにしては	2	2	-	
	安いものにしては	3	-	-	
	(ノ) 安いこと(と)しては	1	1	1	
	安かった(と)しては	-	1	2	
45	45. いくら(しても)、統計数値はあくまでも数値に過ぎません。[重要だ] 중요하다고는 해도				92.6 [1] 70.4 [3] 25.9[20] 63.0 [4]
	○重要だとしても	25	19	7	
	重要しても	-	4	8	
	重要にしても	2	2	3	
	重要なしても	-	1	4	
	重要だ(った)しても	-	-	4	
	○重要であるにしても	-	-	-	
	その他	-	1	1	

46	46. (しろ、 しろ)、彼女みたいな人は他にはいない。[好きだ、嫌いだ] 좋아하든 싫어하든				88.9 [2] 63.0 [4] 29.6[16] 60.5 [6]
	○好きにしろ/嫌いにしろ	24	17	8	
	(二) 好きしろ/嫌いしろ	1	6	10	
	好きなしろ/嫌いなしろ	-	-	3	
	好きにしろ/嫌いしろ	1	-	1	
	好きとしろ/嫌いとしろ	-	1	1	
	好きだ[と]しろ/嫌いだ[と]しろ	-	1	1	
	その他	1	2	3	
*「好きにしろ/嫌いにしろ」には「好きにしろ/嫌にしろ」(N2:3人、N3:3人)、「好にしろ/嫌にしろ」(N2:2人)が含まれる。					
47	47. (しては)下手だ。[好きだ] 좋아하는 것 치고는				40.7[35] 29.6[24] 18.5[27] 29.6[31]
	○好きにしては	11	8	5	
	好きだとしては	3	6	3	
	(二) 好きしては	-	4	7	
	好きとしては	2	4	1	
	(ノ) 好きなこととしては	1	1	3	
	好きなしては	-	-	5	
	好きなものにしては	3	-	-	
	(ノ) 好きなこととしては	2	1	-	
	(ノ) 好きな[こと]にしては	2	-	-	
	好きなものとしては	1	1	-	
48	48. プロが(しては)ちょっとおかしい。[やっている] 하고 있는 것 치고는				33.3[40] 14.8[43] 3.7[44] 17.3[42]
	やっているとしては	6	13	4	
	(二) やっているしては	1	6	10	
	○やっているにしては	9	4	1	
	(ノ) やっていることにしては	4	1	1	
	やって(いて)しては	-	1	5	
	(ノ) やっていることとしては	1	2	-	
	やっているものにしては	2	-	-	
	(ノ) やっているのにしては	2	-	-	
	やるしては	1	-	1	
	やっていたとしては	-	-	2	
その他	1	-	3		

4.3.2 誤用について

<表7>によると、表現文型(「格助詞ニ＋動詞」など)の接続の誤用(=誤答)の類型は、[A]格助詞ニの脱落の誤用(<表8>)、[B]格助詞ニに前接する動詞の誤用(<表9>)、[C]格助詞ニに前接する名詞の誤用(<表10>)、[D]形式名詞ノ・コトの添加の誤用(<表11>)などが代表的である。誤用の類型別の誤答率はすべてN3、N2、N1学習者の順で高く、[C](25.3%)、[B](19.7%)、[D](11.8%)、[A](11.5%)の順で学習者全体の誤答率が高い。

[A]格助詞ニの脱落の誤用と[D]形式名詞ノ・コトの添加の誤用は、正反対の傾向をみせている。すなわち、[A]はN3(17.6%)、N2(13.7%)、N1(3.3%)学習者、[D]はN1(15.9%)、N2(13.2%)、N3(6.4%)学習者の順で誤答率が高い。[D]はJLPT水準が高い学習者が誤答率が高い。

また、[B]格助詞ニに前接する動詞の誤用は、N3(25.1%)、N2(21.2%)、N1(12.7%)学習者、[C]名詞の誤用はN1(28.2%)、N3(26.4%)、N2(21.3%)学習者の順で誤答率が高い。[C]は誤答率も高いが、JLPT水準が高いN1学習者の誤答率が最も高く、◎誤答率での比率が最も高い(62.1%)。

<表8> 格助詞ニの脱落の誤用

学習者のJLPT水準 格助詞ニの脱落の誤用(48問題) (%)	N1	N2	N3
①正答率	53.4	33.5	25.5
②誤答率	46.6	66.5	74.5
③格助詞ニの脱落の誤答率(②に含まれる)	3.3	13.7	17.6
④誤答率におけるニの脱落の誤答率の比率[③÷②=]	7.1	20.6	23.6
*正答と誤答を比較して格助詞ニだけが脱落したもので、<表7>の46問題(48問題から問25と問45を除いたもの)の回答類型に(ニ)で表示している。			

<表9> 格助詞ニに前接する動詞の誤用

学習者のJLPT水準 動詞の誤用(21問題) (%)	N1	N2	N3
①正答率	50.3	27.3	20.1
②誤答率	49.7	72.7	79.9
③動詞を名詞として誤って使用した誤答率(②に含まれる)	12.7	21.2	25.1
④誤答率における動詞の誤用の比率[③÷②=]	25.6	29.2	31.4
*動詞を名詞(動詞のます形を含む)として誤って使用したものは、<表7>の21問題(48問題から問1、2、3、8、11、13、15、16、17、19、21、23、28、31、32、34、36、37、38、40、42を除いたもの)である。<表7>の回答類型に(動)で表示している。			

<表10> 格助詞ニに前接する名詞の誤用

学習者のJLPT水準 名詞の誤用(8問題) (%)	N1	N2	N3
①正答率	54.6	41.6	30.6
②誤答率	45.4	58.4	69.4
③名詞を動詞として誤って使用した誤答率(②に含まれる)	28.2	21.3	26.4
④誤答率における名詞の誤用の比率[③÷②]	62.1	36.5	38.0
*名詞を動詞として誤って使用したものは8問題(問12、14、25、26、27、33、35、39)である。<表7>の回答類型に(名)で表示している。			

<表11> 形式名詞ノ・コトの添加の誤用

学習者のJLPT水準 形式名詞ノ・コトの添加の誤用(48問題)(%)	N1	N2	N3
①正答率	53.4	33.5	25.5
②誤答率	46.6	66.5	74.5
③形式名詞ノ・コトの添加の誤答率(②に含まれる)	15.9	13.2	6.4
④誤答率におけるノ・コトの添加の誤答率の比率[③÷②]	34.1	19.8	8.6
*回答類型でノ・コトを添加したもので、<表7>の35問題(48問題から問17、18、19、20、25、27、31、32、36、39、41、45、46を除いたもの)の回答類型に(ノ)で表示している。			

5. おわりに

本稿では、表現文型(「格助詞ニ+動詞」など)に前接する用言などが、それらの表現文型と接続するときに発生する誤用について、学習者のJLPT水準別に考察した。

学習者のJLPT水準別の正答率は48問題全体や5つの類型別ではN1、N2、N3学習者の順で高いが、48問題それぞれにおいては16問(33.3%)はそうではないことが分かる。また、N1学習者の正答率が53.4%であり、学習者全体(N1+N2+N3)の正答率も37.5%に過ぎず、表現文型の接続の習得が困難であることがよく分かる。表現文型(「格助詞ニ+動詞」など)の接続の誤用の類型は、[A]格助詞ニの脱落、[B][C]格助詞ニに前接する動詞・名詞の混同、[D]形式名詞ノ・コトの添加などが代表的である。JLPTの水準が高いほど[A]、[B](動詞の誤用)は誤答率が低く、[D]は高い。[C](名詞の誤用)は一定していない(N1>N3>N2学習者)。

今後は、本稿の結果を基にこれらの表現文型の使用(表現)に対する指導法の提示が課題として残る。同時に、その他の表現文型の使用に対する習得調査も必要であるとする。

【参考文献】

- 趙南星(2017)「日本語表現文型の接続において現れる誤用について」『日本近代学研究』第58輯, 韓国日本近代学会、pp.59-82
- 国際交流基金・日本国際教育支援協会(2002)『日本語能力試験出題基準【改訂版】』凡人社、pp.161-174

논문투고일 : 2020년 03월 17일
심사개시일 : 2020년 04월 17일
1차 수정일 : 2020년 05월 08일
2차 수정일 : 2020년 05월 12일
게재확정일 : 2020년 05월 20일

 <要旨>

日本語表現文型の接続習得に関する研究

- 「格助詞ニ＋動詞」などを中心に -

趙南星

本稿では、表現文型(「格助詞ニ＋動詞」など)に前接する用言などが、それらの表現文型と接続するときに発生する誤用について、学習者のJLPT水準別に考察した。

学習者のJLPT水準別の正答率は48問題全体や5つの類型別ではN1、N2、N3学習者の順で高いが、48問題それぞれにおいては16問(33.3%)はそうではないことが分かる。また、N1学習者の正答率が53.4%であり、学習者全体(N1+N2+N3)の正答率も37.5%に過ぎず、表現文型の接続の習得が困難であることがよく分かる。表現文型(「格助詞ニ＋動詞」など)の接続の誤用の類型は、[A]格助詞ニの脱落、[B][C]格助詞ニに前接する動詞・名詞の混同、[D]形式名詞ノ・コトの添加などが代表的である。JLPTの水準が高いほど[A]、[B](動詞の誤用)は誤答率が低く、[D]は高い。[C](名詞の誤用)は一定していない(N1>N3>N2学習者)。

A Study on the Acquisition of Connective Postpositions of Japanese Pattern Expression

- Focusing on 「case-marking postpositional particle ni+verb」, etc. -

Cho, Nam-Sung

In this paper, the misuse that occurs when the predicate and others preceding the pattern expression is followed by the pattern expression ('case-marking postpositional particle ni+verb', etc.) is examined by JLPT level of learners.

The percentage of correct answers by learner's JLPT level was higher in the order of N1, N2, and N3 learners in all 48 questions or 5 types. However, it was found that 16 of the 48 questions (33.3%) was not. Furthermore, the percentage of correct answers for N1 learners were 53.4%, and the percentage of correct answers for all learners(N1+N2+N3) was only 37.5%. Accordingly, it was found that it was difficult to acquire connective postpositions of Japanese pattern expression.

And the following are typical types of misuse of connective postpositions of Japanese pattern expression('case-marking postpositional particle ni+verb', etc.): ① elimination of the postpositional particle ni, ②③ confusion of verbs and nouns that precede the postpositional particle ni, ④ Addition of the formal noun, no and koto. The higher the JLPT level, the lower the percentage of wrong answers in ①, ②(Verb misuse) and the higher the percentage of wrong answers in ④. The percentage of wrong answers in ③ is not constant (N1> N3> N2 learners).